

発行  
書道研究 有根会



会長  
松下英風

第四十四回有根会書展及び第三十回記念公募展。そして、今回より始めました第一回書初め公募展が無事に終わりました事、厚くお礼申し上げます。  
展覧会場が電気文化会館から愛知県美術館へ変わりました。第一回はJ室で、二回目はJ室に加え、アートスペース十二階G・H室と地下二階X室の三会場で行ない今回はE・F室でと、年ごとに新たな作業となり、前任の事務局長古川昇史さんや現在に加藤矢舟さん、皆さんのご協力があった素晴らしい展覧会になったことに感謝いたしております。

第一回書初め公募展においても研究部長の本間翠眉さんは、準備から表彰式まで、大変にご苦労なさいって無事に終える事が出来ました。会を盛り上げるために、みなさん一人一人が頑張っている姿を見て、大変嬉しく思っています。  
来春、本展が第四十五回記念展となります。私の考えと共に、皆さんの意見をとり入れながら、諸先輩の経験を踏まえ、新たな会の発展を目指して、恥ずかしくない展覧会にしていきたいと思います。これからも会員皆さんのご協力をお願いします。

近頃は

理事長 古川芝芳



朝「おはよう」で一日が始まり「おやすみ」で一日が終る。食事の前には「いただきます」食後には「ごちそうさま」と食物に感謝し出掛ける時には「行ってきます」帰ってきたら「ただいま」と家に入る。外で知った人に会えば「こんにちは」「こんばんは」と自然にあいさつをします。  
先日、駅のエレベーターで四、五人が乗り合わせたときのこと。若い女性が操作をしてくれた。降りる際には「開」のボタンを押してくれていたもので、順に外へと出たが、誰も何も言わなかった。お先に「すみません」と言ったら彼女は、笑顔で「どうも」と返してくれました。  
今、あいさつは、「ありがとうございます」「しつれいします」と声に出して言いたい。物騒な世の中ですが、人と人とのつながりに、心温まる習慣を、いつまでも大切にしていきたいです。

総会・研究会

四月二十九日 豊川稲荷



有根会役員

常任顧問

三神 榮軒  
龜山 富美

会長

副会長

松下 英風  
加藤 矢舟

理事長

副理事長

古川 芝芳  
古川 昇史

常任理事

古川 昇史  
天見 芳泉  
龜畑 明曠  
永谷 恵子  
本間 翠眉  
秋田 桃泉  
落合 玉泉  
庄田 翠苑  
林 翠葉  
日景 洋子  
藤井 正香  
藤村 真徳  
松下 三雪  
黒野 芝香

理事

伊藤 芝山  
岡田 愛子  
加藤 華泉  
加藤 翠林  
木戸 長山  
杉浦 仁美  
中尾 芝菜  
村上 雪山  
渡部 春泉

監事

畑 裕子

参与

加藤 翠谷  
小宮山 可恵

平成二十六年三月現在

### 芝堂先生のお墓参りと 親睦旅行

常任理事 庄田翠苑

快晴の十月十四日、観光バスは定刻に名古屋屋を出発。途中、豊田・名鉄国府駅で数人乗車され、旧知の方ばかりで車内は和気あいあいおしゃべりが弾んでいる間に前芝西福寺に着きました。堤防に車を停めて降車。お寺では和尚様が待っていて下さいました。読経が始まり、ありがたく聴いているうち、芝堂先生のニコツとされたお顔が目につかびました。思わず、

「先生、皆さんでお参りに来ました。皆で頑張っております。これからも導いて下さい」と

と心でお礼を述べ、手を合わせました。それから、二手に分かれ、お墓参りと遺作拝見をしました。何分に



前芝神明社にて



蔵王山頂上にて

も時間に制限があり、ゆっくり拝見できなくて残念でした。堤防を歩いて十分程神社へ向かいました。前日が秋の例祭だったとか、早朝から後片付けを終えた総代さん始め、お世話人さんが出迎えて下さいました。

神社には芝堂先生奉納の『前芝神明社』の板額と、昭和三十年日展初入選の、先生のこれからのという意気込みが溢れんばかりの大作に、感動を覚えました。

前芝館では、焼きあさり・あさりの炊き込みご飯・あさりの味噌汁の昼食を戴きました。あさりの時節ではないのですが、本場三河のあさり三昧に舌鼓を打ちました。

定刻には、三河港を眺めながら、田原へ向かいました。バスは曲がりくねった道を蔵王山へ登り、展望台より渥美半島を一望しました。南に太平洋・北に三河湾を眺めたものの、東の空には雲がかかって、富士山が望めず残念でした。お天気のよい日には渥美半島の先端まで眺められるそうです。蔵王山を後にして、田原の街中を通り、めつくんハウスに立ち寄り、特産のメロンや海産物等が並ぶ店々で、お土産を求めて帰途に着きました。

有根会ではじめての親睦旅行で、芝堂先生を偲ぶ日帰り旅でした。これからも会の発展と親交のために、こんな旅が続けられたらいいな、と思いました。

### 読売入賞入選有根祝賀会

平成二十五年十月二十七日

龍園本店

読売中部展が十一月となり、祝賀会も暑い最中ではなく十月の第四日曜に開催。今年度当番審査員・松下英風会長先生達のおかげで、多くの入賞入選者を輩出し喜びも一しお、美味しい料理に舌鼓し、料理長の包丁捌きに見惚れ、村上雪山評議員の司会で滞りなく進行和やかで楽しい祝賀会となりました。

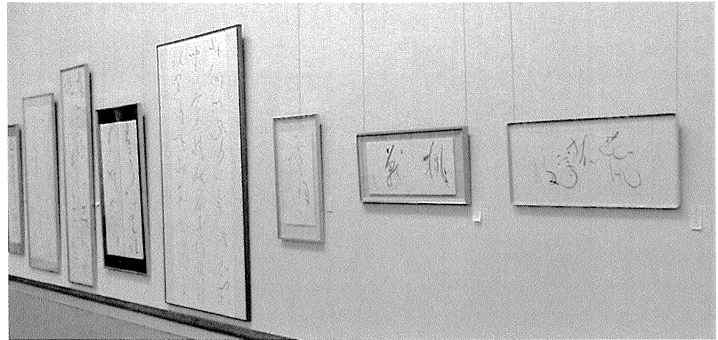


第四十四回有根会書展  
第三十回記念公募展

春風の中で

常任理事 秋田 桃泉

平成二十六年初春、一月七日から十三日、第四十四回有根会書展、第三十回記念公募展、第一回書初め公募展の合同展が始まった。松下芝堂先生の雪月花が中央に凛と輝き、その流れを汲む作品が所狭しと陳列され、高い天井のお蔭で大作や二段掛けも心地よい空間となった。書初め展は、八ツ切紙の清書に表装がほどこされジュニア達の力作が並んだ。厳しい寒さの中、連日大勢の方々のご来場頂き、感謝の一週間でした。表彰式、懇話会はマリオットアソシアで開かれ松下会長より賞品賞状が授与され、審査総評を亀山常任顧問、開会の辞を三神常任顧問、会長の感謝いっぱいのご挨拶で始まり、閉会は古川理事長で締め括られ、和やかに楽しい会は終わりました。参加者は、協賛会員も含め百十一名、又授賞式も入選から入賞まで例年以上多数の出席でした。すべてを含め有根会の絆の強さに全員が感動していました。



審査講評

常任顧問 亀山富美

有根会書展・公募記念展おめでとうございます。本年は、会員展八十八点、公募展百五十五点の出品数が多いです。審査は会長と役員数名で意見を出し合いました。時間をかけて決定しました。作品がどんなによくても、少しいずれは審査の対象からはずすという、会長の強い意思を尊重し、しっかりとつぶさに見てまわりました。全部があつくなり感動品を覚え、胸があつくなり感動動が伝わる作品をめざしてください。

今日の授賞式の感激を忘れないで、御精進下さる事心よりお願いします。ご挨拶と致します。

後記

あらためて有根会の根つこの深さ大きさ、そして愛を感じました。形、筆法、構成とかは、ひとりひとりの姿姿が違いますが、性格、人格なども異なり、そこに個性が生まれてきます。その中には芝堂先生のたましいの書が息づいていて、引き継がれ、祝賀会の帰りの道、夜空に星が燦然と輝いていました。



第四十四回有根会書展  
受賞者

芝堂大賞 藤村 真徳  
芝堂準大賞 杉浦 仁美

中尾 芝菜  
奥村 春翠

中日賞

加藤翠林 渡部春泉  
大岡祥園 夏目美沙

東海テレビ賞

阿知波江泉  
勝野紅雪 倉知葉舟  
小林雅子 西川佳江

第三十回記念公募展受賞者

記念賞

美濃部純 富田春風

有根会賞

仙頭春暁 高見芝萌

中日賞

青木佳代子

近藤彩苑 鷺野春翠

壁谷由美 岩田純子

東海テレビ賞

柳澤孝子 関口宇塵

水野笑子 山田由香

坪井万里子

特選

池田珠樹 青木久美子

秀作三二名 入選一〇七名

